

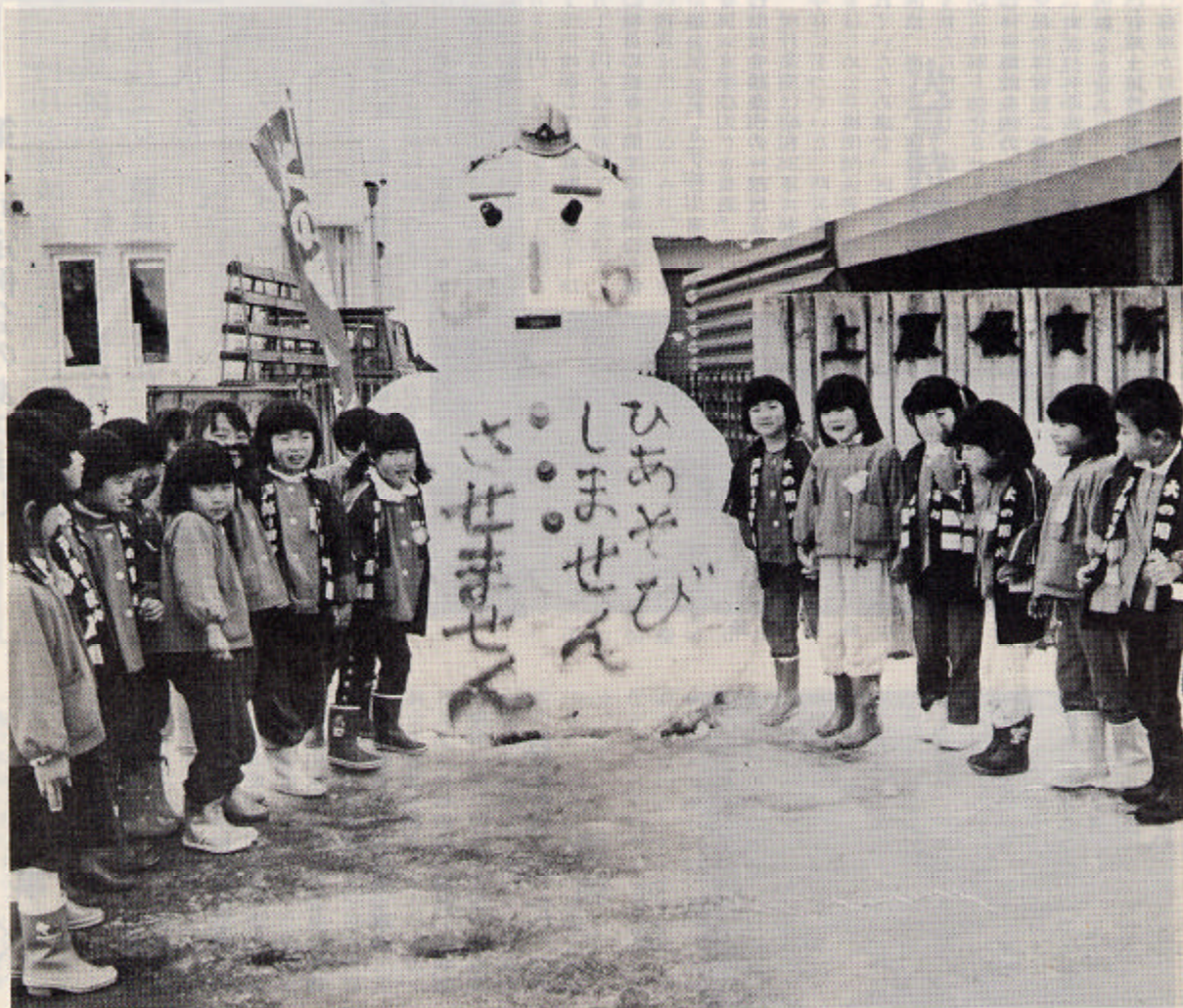
入善町 議会だより

12月定例議会

№. 42号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会
富山県下新川郡入善町入膳3,255
☎ 0765 (72) 1100



願う 無火災

ページ案内

12月定例会で決定したこと	2ページ
追悼演説・委員会報告	3ページ～4ページ
町政一般質問	5ページ～8ページ
常任委員会審査報告、賛成・反対討論	8ページ～10ページ
特別委員会視察記	10ページ～12ページ

12月定例議会

- 補正予算(4号)1億235万1千円追加
- 人勧の補正予算(2%)等を可決

第15回定例会のあらまし

12月定例議会は12月8日から20日までの会期で開かれ、昭和57年度決算認定、人事院勧告による、職員の給与改正、補正予算などを議決した。

こんなことがきました

主な内容

- 昭和58年度一般会計補正予算
今回の補正は現段階で確定した国、県補助に基づく事業と町単独で実施する事業のほか、人事院勧告に伴い職員給与の改正(4千700万8千円)など補正合計1億235万1千円増額し予算総額6億7千700万1千円とした。
- 職員の給与に関する条例の一部改正
職員の給料を平均引き上げ率2%(3千200円)とした。
- 防災会議条例の一部改正
現行条例は昭和38年に制定され今日に至っていた。防災委員は県をはじめ公共機関関係者で構成されていたため議会、区長会、農協、漁協、商工会、建設業会等の代表を新たに任命し、広く意見を聴き防災体制を強化させる。
- 体育施設条例の一部改正
社会体育館(舟見)の完成に伴い町民以外や営業に利用する場合の料金を定めた。
- 新規土地改良事業計画
藤原から東五十里地先まで延長



社会体育館

2千400m幅員8m・町が行う土地改良事業として計画。

人事

- 監査委員選任に同意
議会議員選任岩場俊監査委員の辞職に伴い、福沢万次議員を選任することに同意
- 黒東合口用水組合議会議員
入善町中沢羽番地、高田一家氏を選出
- 黒部川水利調査特別委員会委員
岡島松次郎議員
- 新幹線対策特別委員会委員
松沢孝衛議員

採択された

請願

陳情

- ▼国道8号線小川橋交差点における信号機の設置に関する請願
- ▼道路の拡幅改良に関する請願 (青木上村)
- ▼町道舗装に関する請願 (柳原・吉原3区)
- ▼入善機械工業センター団地外周の排水路整備について請願
- ▼生活道路の舗装に関する陳情 (上野3区)
- ▼生活道路の舗装に関する陳情 (上野4区)
- ▼入善町健康センターの増築整備に関する陳情
- ▼昭和59年度農道整備舗装事業について陳情(野中地区)

11月

17日 決算特別委員会視察 (広島県府中町)

18日 水利調査特別委員会視察 (新潟県新津市)

21日 決算特別委員会

22日 町民会館建設特別委員会

24日 豪雪町村議長大会

25日 全国議長大会

29日 決算特別委員会

30日 上・中・下議会議長会

1日 議会運営委員会

2日 町民会館建設特別委員会

6日 議会運営委員会

8日 議員全員協議会

15日 第15回入善町議会定例会 (初日)

9日 議会運営委員会

12日 議会定例会(二日目)

14日 総務委員会

15日 産業建設委員会

16日 文教厚生委員会

20日 議会定例会(最終日)

23日 下新川三町議員協議会

27日 広域圏議会

24日 議員全員協議会

1月

24日 議員全員協議会



故舟本議員の冥福を祈り議場において、全員黙祷の後、追悼演説が行われた。

追悼演説



去る10月12日に逝去されました故舟本第一議員の急逝をいたみ謹んで哀悼の意を表します。本日ここに昭和58年第15回定例会にあり、いまひとり6番議席にはありし日の容姿と形跡に接することができず、議員一同惜別の情を禁じ得ないところでございます。振り返るに君は大正14年2月当時の野中村西中の地に生まれ、野中小学校を終えられた後、爾来家業の農業を手伝うかたわら、一家を助け農業に専念されたのであります。戦後の世相困はいその極に達し、



当時のそれに屈することなく奮々として生産増強に努められ、その気迫と努力は地域住民の信望となり、昭和24年3月推されて野中村外3か村の用水組合議員に就任され以来、今日まで西沢土地改良区理事を筆頭に四千石用水土地改良区理事、野中土地改良区理事、黒部川沿岸土地改良区理事の30年の永きに渡り農地改良に寝食を忘れて尽力されたのであります。君は清廉潔白、責任感旺盛にして人望すこぶる高く常に公共の念に厚く、従って地域住民は申すに及ばず衆望を寄せるところ、昭和56年10月入善町議会議員に推されて当選の栄に輝かれ町政推進に参画されたのであります。この間君は議会にあっては産業建設委員会副委員長、文教厚生委員、決算特別委員長等の要職につかれ、また土地改良事業に精魂を尽くす活躍振りは枚挙にいとまがなく、常に君は信条とする住民福祉の増進に献身的努力を傾注してこられたのであります。ここに君が生涯における幾多の功績は、必ず後世にその名

を留めおかれるものと信じて止まないものであります。思い起こせば今年初秋、再度の入院と聞きお見舞いを申し上げた時、例によって元氣も良く数日間治癒退院の運びと堅く信じておりましたのに、日を追って病魔の侵すところとなり御家族の手厚い看護もむなしく、薬石の功なく、議員として大成を願望されていた身を持ってついに不埒の客となられたことは返す返すも痛恨にたえません。人生は電光



朝露の如き身となり、今は呼べど応えぬ君が形跡はなお耳に残り哀悼の情極まって言葉も思い出せません。ここに君がありし日を偲び生前のご功績をたたえ、ひたすら泉下の平安とご遺族並びに入善町の前途に限りなきご加護を賜りますようお願い申し上げて措辞を連ね入善町議会を代表いたしました。追悼の言葉といたします。

昭和58年12月20日

入善町議会副議長

大林政雄

決算審査報告

委員長 池原 金与志

昭和57年度各会計決算は、9月議会で特別委員会を設置し、11月末まで10回にわたり審査を行った。結果を12月議会初日に報告し、認定された。

審査の方針

町当局が議会の議決を尊重し適正に予算を執行したか。また、その投資効果はどうかを検討し、次年度以降の予算編成と今後における行政の方向を見い出すよう意見を付した。

総括的意見

在宅老人訪問サービス事業、福祉タクシー助成金制度など福祉面の充実など評価すべきところも見られたが、歳入総額67億266万円は7億5千万円の電源開発振興寄付金を引くと、56年度より4千500万円減である。法人町税、地方交付税は伸び悩んでいるが、歳出面で投資的事業の獲得に向けて努力されたい。

審査の所見

(一) 一般会計

※総務関係について
滞納は増加の傾向にあるが、課税の公正に留意しながら、滞納一掃に努力されたい。
国県支出金合わせて56年より

2億7千万円の減は町経済の活性化にとって、マイナスである。今後の補助獲得に期待する。

一、職員の間企業派遣研修は今後必要ないと思われる。住民全体の奉仕者であるという原点に立ち返った研修が必要だ。

一、情報公開については、住民また行政ともに準備が整ってから条例制定しても遅くない。

一、町民会館の建設は、町民の意見をよく聞き慎重に対処されたい。

一、町有財産の管理は手落ちのないよう万全を期せられたい。

※文教厚生関係について
一、上青小学校の手直しすべきと指摘された問題は、現場の意見を聞き今後の学校建設の教訓とされたい。

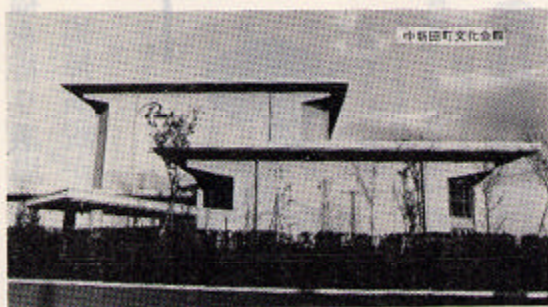
一、老人いこいの家を改装し独立児童館とする計画もあるが、開取り等構造的に欠点もあり慎重に検討すべきだ。

一、芸術の香り高い文化のまちづくりの一環として郷土出身作家



図書館

- 一、作品を購入しているが、町民の見る機会、場所がないなど問題もあり今後の購入に一考を要する。
- 一、図書館の利用、普及についての方法を検討すべきである。
- 一、来年4月1日オープンする老人福祉センターは、福祉バスでの送迎や、運営は十分検討されたい。
- 一、高額療養費貸付金制度は見直し利用しやすい方法に検討されたい。
- ※産業建設関係について
- 一、無雪害街づくりは高率補助をもって対応し、公共性高い幹線道路は地元負担を徴収しないように取り組みたい。
- 一、中央通り線(駅より8号線)



中新田町文化会館

町民会館建設に関する中間報告 (概要)

委員長 岡島 松次郎

は、入善町の将来展望に立って臨むことが必要である。
 ※その他各部門共通事項について
 一、予算執行において当初計画の不備も見受けられるので、今後留意すべきだ。
 一、墓ノ木自然公園の使用申し込

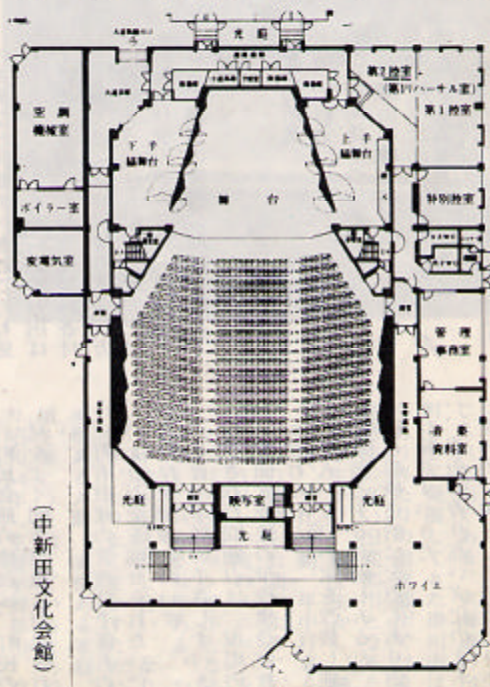
みは社会教育課、管理は建設課、施設計画は都市計画課と分散している。町民に戸惑いもあり、組織のあり方を検討されたい。
 一、物件費等経常的経費の節減に
 なお一層努力されたい。

町民会館建設問題を当局より提起されたことから、議会内にもそれを受けて種々な論議が展開されたが、議会として見解をまとめる必要上6月議会で特別委員会を足させた。当局の会館基本構想は

一、施設内容として中央公民館、図書館、文化ホールの複合体。

二、敷地は役場庁舎北側とする。これは駐車場など庁舎と一体活用できる。

三、建設年は59年、60年の2ヶ年とし総事業費15億円。
 ということであった。
 当委員会としては、町全体の将来を踏まえて全町的な施設配置、都市計画の中での位置づけ、特に武村福祉会館との関係などその目的性格等を明らかにしつつ、町民会館の敷地等も含めて模索することとした。町民会館はそれのみで機能するのではなく地区公民館、武村福祉会館、勤労者福祉センター、図書館、勤労青少年ホーム、現在建設中の老人福祉センター、運動公園、また将来建設されるであろう総合体育館などと共に有機的に連動させ、町民と施設が一体となった生涯教育へと発展させねばならない。現況施設で武村福祉会館は駐車場の不足や結核式利用の年々減少など、また図書館は武村福祉会館の2階であるため宴会



(中新田文化会館)

の音声が開こえるなどの問題、中央公民館は児童館が併設されているので、集会場としてよりも卓球等軽スポーツの場に転用されている。また中央公民館として具備すべき機能は不足しているのが実態だ。従って町民会館は町民いこの場として緑地公園、500台位の収容可能な駐車場など相当広い敷地が必要であり、敷地の選定は検討を要するとの結論となった。文化ホールを建設する場合、現在の武村福祉会館ホールと役割分担を決めるべきである。図書館は建設用地の再検討となれば独立館として市街地に近いところが望ましい。

まとめとして、

- 一、図書館を分離し生涯教育の面から中央公民館と文化ホールの2つの複合施設とし、運動公園に隣接して建設する事が望ましい。
- 二、文化ホールは客席の最大規模を600席程度とし、音楽から演劇までのパツパツホール様式とすることが望ましい。
- 三、生涯学習の中核であるので、片手間の運営には問題があり社会教育課及び教育センター機能は町民会館へ移るなど考慮されたい。
- 四、建設後の維持管理費については、人件費を除き相当額の年間負担を覚悟すべきであろう。
- 五、運営にあたっては、町内の自主的グループ活動には使用料の軽減を考へてほしい。
- 六、文化ホールは新川地域の文化活動の拠点として積極的な対応が望ましく小・中・高校の学校教育の場として文化的企画、自主事業の独自性等、多様な創造性あふれる運営を期待する。

なお武村福祉会館の利用については、他の施設を含めて今後検討していく必要がある。

12月定例会 町政一般質問と答弁

予算編成の 基本とする ものは何か!

岡島松次郎議員(自民)

自民党議員会代表質問

指摘のとおり国の財政状況、経済情勢の推移からして、59年度の地方財政は大変厳しくなる。富山県においても59年度予算要求額は58年度当初の5%削減した範囲内にとどめることを報道している。一方町民の町政に対する期待は、先般開催した町政懇談会の中でも明らかのように増大しているが、総合計画のもとに着実に推進していききたい。

基本的考え方として

一、投資的事業は総合計画の実施計画に基づきたい。
二、事務事業の効果を検討するなど行財政の改革を推進する。
三、義務的経費や投資的経費以外は前年度当初のマイナス5%の要求率としたい。
四、事業の優先度、緊急性を精査し、全面的に見直したい。
五、歳入の見積りに当たっては確實な財源の把握に努力したい。
六、町民税の法人均等割は制限税率まで引き上げたい。

これら姿勢を基に町民会館の建設、駅南住宅の完了、飯野小学校建設着手を図りたい。

新総合計画に基づく59年度から

61年における実施計画のローリングは、当初と比し後退の感がない。59年度計画のもので繰り延べされていったものを2・3述べると、分譲宅地が削減されている。この様な経済状態だからこそ、民間投資の誘発、人口増などその波及的效果は大なるものがある。

次に、町営住宅並びに雇用促進住宅は満ちの状態である。雇用促進住宅の建設運動をどの様に展開してきたか。

次に、農業をとりまく環境は貿易の自由化、転作問題など多く抱えている。かかる時局において農道整備もできると聞く新農業構造改善事業に大きく期待しているが、計画に見当たらない。

さらに街路中線だが59年8千万円の事業予定が5千万円になっている。ややもすると来年も今年のように3千万円だとするとこの路線の完了は早くても5年かかる。

これから繰り延べした要因はどこにあるのか。

総合計画のローリングは、策定時から社会経済の動向、国や県の財政事情、また町民のニーズに若干の変化が見られるので見直しをした。これによって中期、長期的に施策の選択と優先度あるいは後年度負担を伴う施策のチェック、財源の年度間調整等を行うことが出来た。

一、分譲宅地造成について調査費を計上し努力している。

一、雇用促進住宅を遅らせたのは、この住宅は町が事業主体ではなく、雇用促進事業団で建設することになっているが、住代議員では県下全体で空室が多いので今のところは無理と話しされている。町では58年度駅南団地を18戸、59年度12戸建設する。これによって住宅事情はある程度緩和できるとも思っているので、状態を見ながら誘致を考えても遅くはないと思う。

一、農業問題については農村モデルが今年で完了するが、来年から横山地区でミニモデル事業を考えている。また飯野地区の土地総合の問題など努力している。

一、都市計画が遅れているのは事実だ。国の財政がきびしい中であって県が事業主体であり町がいくら努力や陳情しても限界がある。

今、入善町の道路行政で大きく政治的に取り組まねばならぬものは、スーパー農道の早期完成、高速度路への取付け、8号線バイパスの新設、主要町道の無雪化など目じる押しだ。早急に促進すべきである。

指摘のとおり多くの問題がある。一度に出来るわけではないが、機会ある毎にこれらが早期実現するよう努力しているところだ。議会の協力もお願いしたい。

先般掛川市を視察してきた。地方都市にも買物公園を作りメーンストリートはふれあいの広場としたいとする市長の町づくりは、即ち人づくりだという哲学等その事業の実際は大変感銘を受けた。入善町の国鉄駅前を始めとした都市計画事業推進と商店街の活性化についてビジョンをどの様に考えているのか。

掛川市の22m道路、街路樹など非常に立派だと聞いていた。町としても駅前はいかに自動車時代が到来するといながらも、町の表玄関であり緊急な政治的課題だ。しかし駅前を含む都市計画道路が計画されてから30年以上経過しているが、何もされていなかったのはそれなりの問題もあったと思う。これらは61年度から着手したいが、道路幅員は住民に協力してもらいながら実際仕事が行えることを考えると16m幅としたい。

事業を行うとなれば補助金や自主財源の確保に向けて努力をしなければならぬが、必然公債も覚悟しなければならぬ。

57年度決算で町債、債務負担行為合わせ約56億3千万、比率にして14%だ。これが15%を超えると財政の黄信号といわれている。過去の債務負担行為で一時的に15%オーバーすることもあったが、現実を十分認識しながら対応したい。

入善高校に学級増図れ

広瀬 義孝 議員(自民)

問 一年前も質問したことが、県立入善高校の収容率は73%と聞くが地元入善高校は50%にも満たない。普通科一学級増の話も聞くが根本的解決にならないので、今後収容率拡大に努力する必要がある。また入善高校の農業科卒業生は企業へ勤めるなどして殆ど農業へ就業しないのがその実態だ。

しかし農業は町の基幹産業であることであり日曜農業としてまた年後の心の支えとして存続すべきと思う。農業科あるいは生活科を含めた廃止、見直しなどの意見もあるようだが収容率の関係等充分考慮に入れながら総合高校として存続に運動すべきでないか。

町長 58年入善町の中学卒業生41名のうち40名が高校へ進学した。指摘のとおり募集が少ないため自らの志望と適性に反して他地区の高校を選ばざるをえない。入善を除く新川地区の募集率は76%からすると入善は32名となり不利になっている。少なくとも3学級増やさねばならないが県教委ではブロック制を考えており、新川ブロック全体が充足されれば良いとの考えだ。これの解消に県議会へも請願して努力している。非公式だが1学級

増やすことを聞いている。しかしもう1学級増やしても良いが生活科を廃止したいと内々に聞いているので中学校、高校の現場の意向を聞きたい。職業科を残す等立場によって意見が異なるが農業科、生活科を残しながら普通科の2学級増を考えて行きたい。

問 高齢化社会が急速に進む中で、どのようにして社会の活力を維持して行くかが今後の大きな課題だ。老人対策については、国や県が関係する大きな問題もあるが町としての役割も大きい。今後の老人福祉はバラマキ福祉から真に助けを必要とする人達に重点を置き活力あるものにならなければならない。



入善高校校舎内部

来年4月1日に開所される老人福祉センターは、高齢者の参加のもとに健康づくり、生きがい作りをして運営すべきでないか。

町長 高齢者の福祉は単に施設収容することだけではなしに、在宅の福祉が一番大切だ。これに関連し健康維持、安らぎの確保という問題に直結させる位置づけをもって老人福祉センターを開所したい。運営に当たっては入浴施設の充実や福祉バスを運行することや生きがい対策の推進ということで、教養講座の開設や子供たちとの世代間交流も考えている。さらに自主的活動の促進など利用者の要望を取り入れて行いたい。また健康保持面は保健事業とも調整し健康相談、検診あるいはトレーニング機器などを考えている。利用者は老人だけでなく社会福祉団体にも提供したい。管理は老人福祉指導員をはじめ

児童館について

松沢 孝衛 議員(自民)

め清掃、用務員など4、5名としたい。提案のように自分達の施設は自ら管理する方向で清掃など自主的な協力も考えている。

問 黒部川堤防上で8号線より板屋まで舗装されているが、そこから下黒部橋まで未舗装だ。衛生車の通行量は海岸線から4割程進入しているしその他車輛の通行も多い。また農道についても、黒部川に沿った北陸線にさきざきられた所、海岸線に沿った地区など特に未整備だ。早急に予算対応されたい。

町長 板屋と下黒部間の堤防上の舗装は町道として認定し、新川広域圏の補助をもらい施工することを検討している。
建設課長 指摘については要望は沢山ある。地域のバランスまた緊急度など参酌しながら整備して行きたい。

問 青少年対策の一環として59年に老人いこいの家を改装し、児童館に整備されることとなっている。この建物は木本幸与作さんの寄付によって建設されたものであり、寄付目的を変更することを相談されたのか。決算特別委員会が児童館とした場合、開取りが悪いと指摘があった。さらに町民会館は学習殿堂の場とするならこの会館に併設すべきでないか。いこいの家を改装しようとする発想はどこから出て来たのか。また運営をどのように考えているのか。

町長 児童館は48年に中央公民館に併設し運営してきた。利用者が増大



現在の老人いこいの家

してきたが、公民館行事と重なった場合利用出来なくなる。いこいの家は新上野住宅や雇用促進住宅にも近く子供達の運動条件にも良い。木本さんにはいこいの家の寄付主旨は十分引き継がれていることや時代を担う子供達のために転用するものであり、理解を頂くよう説明したい。ただ改装しても運動するような場合、スペースが足りない。町民会館の活用も考えねばならない。人的運営については検討中だが教員の退職者など配置も考えている。なお流動的だが、半年間位に国営かん排の仮事務所として提供することも検討している。

問 町立建物で過去の例だが雨もりで修繕したとか、窓より雨が吹き込むなど問題もある。引き受け完了時の検査は万全を期しているのか。次に、庁舎は町のシンボルであり町民の顔でもある。総合計画では

60年61年の2ヶ年間、1億円で庁舎外壁を改装することになって、当初聞いた時は7千万円位の修繕費だっと思つた。物価上昇や傷みが多くなつてからでは手遅れしないか。

町長

工事のチェック機能について、国や県では検査室を作り専門的に検査を行っているが町段階では設置してるところはない。ただちに検査室なり設けることは定数人員の問題もある。住民の共通財産であり企画財政課に検査など主体と

防火思想の高揚に努力を!!

板川 清治 議員(自民)

地方自治体の超過負担の解消が叫ばれてから20数年になる。政府も努力しているといつては、現実には合わない。入善町ばかりではないことだが、我町の国庫補助事業での超過負担はいくらか。またこの解消についてどのように考えているか。

町長

指摘のとおり超過負担は財政の健全化を阻害する要因になっている。57年度では保育所運営費4千800万円、農業委員会2千100万円、上青小建設で1億6千500万円、町営住宅で1千600万円など2億5千万円位だ。58年度では保育所運営費で6千600万円、農業委員会費1

する経験ある専門職員の配置も検討してみたい。なお上青小学校の窓枠より雨が入ったとの報告を受けたが、突発的な気象条件下のことであるが今後の設計に十分留意したい。また庁舎の外壁を業者に見積らせるのと塗料をぬつた場合7千500万円、アルミまたステンレス板で覆うと1億2千3千万円となる。業者では1-2年放置しても建物に重大な影響はないと言っており、もう少し専門家の話を聞き総合的に判断したい。

が、これを受けてどのように取り組んでいるのか。

町長

最少の経費で最大の効果を上げるため精力的に行政の簡素合理化に取り組んでいるところだが、58年度中に実施したものは、
一、利用者負担の原則を導入するため手数料及び実費の徴収規則を一部改正
二、情勢の変化、投資的な効果を見て補助金の削減10件、減額3件
三、環境保全係と衛生係を統合し環境衛生係とするなど、事務能力と組織の簡素化に努めた。
四、農村福祉会館を効率的に運用できるように規則を改正した。
五、徴税費の節減を図るのに前納報償金を引き下げた

などであるが59年の予算編成に当たっては事務的、投資的経費外は5%マイナス要求とするなど対応している。

町長

無火災の町づくりに常日頃行政あるいは消防本部の尽力に感謝するが、58年に入ってから火災が頻発している。消防用設備の設置義務がある事業所等は、これを点検し消防署長へ報告しなければならぬことになっていくが遵守されているか。また防火対象物は何ヶ所位か。次に防火対象とされる事業所等は防火管理者を定め防火訓練を実施することになっている。普及啓蒙しなければならぬ町の実施状況や事業所等は行っているか。

無火災の町づくりに常日頃行政あるいは消防本部の尽力に感謝するが、58年に入ってから火災が頻発している。消防用設備の設置義務がある事業所等は、これを点検し消防署長へ報告しなければならぬことになっていくが遵守されているか。また防火対象物は何ヶ所位か。次に防火対象とされる事業所等は防火管理者を定め防火訓練を実施することになっている。普及啓蒙しなければならぬ町の実施状況や事業所等は行っているか。

消防長

防火対象物園のうち約半数が報告されている。消防署では随時立入検査を行って指導している。消防訓練状況は小中学校、保育所は年数回、大手企業は春と秋の火災予防運動に合わせ実施、寿菜苑や

職員の民間企業派遣研修をやめよ

九里 郁子 議員(共産)

むつみ園は随時行っている。防火の普及活動として消防署はもちろんのこと、特に婦人防火クラブでは毎月19日婦人防火の日と定め、町内全域にわたって火災予防を呼びかけ啓蒙を図っている。

町長

「お誕生日おめでとうございます……」入善町長袖木春雄「10月24日電報が届いた。首を傾けると同時に何と無駄使いするものと呆れた。こうした誕生日の祝電の発想はどこから出てきたのか。その対象範囲はどこまでか。また議員の10年勤続表彰に合わせ、旧議員をも招待して立食パーティーを考

町長

えているとの話だが意味はない。むしろ無駄を批判すべきでないか。さらに「役場職員が3日間企業で勉強してきたら給与を上げてもらえたら」とその実態を明らかにして欲しい」と手紙を町民より頂いた。それは事実か。また決算特別委員会の意見や町民、企業そして職員からも不評である。職員の民間派遣研修は米年からやめるべきではないか。このような無駄はほんの一部だが現況59年度政府の予算編成方針のように、物品税や消費税

などの引き上げ等町民の負担が増加するなかで町費の無駄作りをして行く基本姿勢こそ問題だ。

平生、町政に協力を頂いている議員に誕生祝電を出している。これは中沖知事から同様の祝電を頂き有り難いと受け止め素直な気持ちで出したものだ。立食パーティーについては県議会でも例もある。独断で行うのではなく議員の皆さんに問題として提起したことであり、無駄という意見は今後の検討課題の資料としたい。職員の企業派遣についての問題だが、職員の昇給短縮は行っていない。企業派遣の即効的な効果は当初から期待していないが、長い目で見て効果が上がっているかと確信している。米年は企業などの意見は聞くがトップダウンを図る形の即効性を考え、課長クラスを派遣して行きたい。なお行財政改革について板川議員



に答えているが、基本的なものを確認しながら執行して行きたいので、気の付いた点があれば指摘して頂きたい。

小児ガンの早期発見のため集団検査の実施の考えはないか。事故死を除き子供の死因のトップはガンであり毎年2千人から2千500人がかかり1千400人前後が死亡するそう。小児ガンにも色々あるが神経芽腫は1才未満で発見されて治療を受ければ70%治るようであり、パニルマンテル酸という特殊な物質を尿の中に出すため尿検査

で発見できる。1才未満で発見し、すぐ手術をすれば治療費は150万円程度、1才後で発見された場合転移再発で1千万円もかかるようだ。検査費用は1人当たり説明書の印刷代、郵便料を除いて2円66銭と計算されている。また富山県議会でも共産党議員に対し市町村と相談しているとの答弁だったそうだが、助かるものなら県とも相談され一日も早く集団検診を実施するべきだ。

町長 入善町にすれば何十年に一人という計算になる。一人3千円位と

緊急質問 町民会館建設について

五十里 隆 議員(自民)

町民会館の建設が来年度予定されており用地問題は早急に解決しなければならぬ時期だ。しかし町長は常日頃、開かれた町政ということをお口にされているが、場所についてそのような参加の形跡はない。また先に町民会館建設特別委員会は視察や検討を重ねた結果、役場の裏の敷地は望ましくないと中間報告をしているが、町長はどのように考えているか。

町長 57年11月位から役場の北側と申し上げていたので、議会の理解を得たものと確信し用地交渉をしてきた。特別委員会の意見は十分理解

いわれるが人命にかかわることなので十分県とも相談の上対応して行きたい。

環境課長 検査料について九里議員と相当開きがあるが民間医療機関に検査を委託する場合と公的機関の差と思える。乳児なので大人みたくに集団検査という訳にはいかない。4ヶ月の乳児検診時に試験濾紙を配り6ヶ月の時点で家で尿をつけてもらった上で検査機関に郵送してもらおう形になるので早いか。県も検討しているので早く実施するよう働きかけたい。

常任委員会審査報告

(総務)

委員長 若島信行

○意見
一、今回補正財源のうち、個人町税の伸び4千950万円をもって歳出の執行の一部に当たるとされるが適切有効に活用されたい。

(文教厚生)

委員長 西尾三郎

○意見
一、寝たきり老人短期保護委託費の追加計上は当を得ている。今後必要に応えられたい。

一、情報化社会に対応し中学校教育にパソコンを導入することは良いことだが、教育機会均等上配布もれしないよう願いたい。

一、景気低迷で予定納税した法人65社のうち28社が還付となるよう。経済動向を注視の上、今後の歳出に当たって不要不急のもの削減するなり、節約する等心がけられたい。
一、国道8号線の交差点における信号機の設置について(古黒部)は、過去に死亡事故等あり、早急に関係機関へ働きかけられたい。
一、大型間接税導入反対、申告納税制度改悪反対、3兆円減税

一、体育施設の利用に当たっては、住民に使用しやすい方法で努められたい。
一、健康センターの増築整備に関する陳情は、入善町には公立病院がないので事情は理解できる。

より充実願いたい、増築するか、しないかは町の将来を踏まえて検討すべきである。

〔産業建設〕

委員長 野坂俊一

○意見

一、広域種子生産団地育成事業の減額は、翌年度へ繰りこされたものであり、今後の努力を願う。
一、国・県・町に於いては農業施策の難しさは理解できるが、人善町としての独自性を必要とする。

一、農業機械導入に当たっては遊休なものもあり、単に補助することなくその投資効果、過去の実績を踏まえ対処すべきだ。
一、無雪害町づくりは3万町民の最も望むところであり、冬場に

向けて、除雪に万全を期された。

一、君島、門山寺線事業は早期解決を図り工事着工されたいが、後日問題が発生しないよう注意されたい。

一、新規土地改良事業計画は喜ばしいことだが、人善町全体の道路情勢を勘案のうえ施工された。

一、道路、水路に関わる請願、陳情は、緊急度合を見ながら要望に応えられたい。

一、入善七夕まつり事業の拡大についての請願は、町主催とする他行事との関連もあり継続して審査する必要がある。

一、たばこ専売制度ならびに公社制度存続に関する請願は、臨調路線に沿って実施された場合の町民への影響はどうか継続して審査する必要がある。

反対討論

九里 郁子議員(共産)

今回の補正予算案の約3は職員給与費である。国に準じて2%アップすることになっている。人事院が5%を勧告したのに政府自身か値切ったことによるものだ。人事院勧告制度というものは、公務員のスト権制と同一の代償として設けられたものであり、それを

値切るのには二重の憲法違反行為だ。2年連続の抑制措置は単に公務員

に止まることなく民間労働者、年金、恩給受給者にも影響し、長く続いている不況を一段と深めるものであり、全く実情に合わない。町民の生活を守る立場から一般会計補正予算及び職員の給与条例改正には賛成できない。

請願17号、18号、19号について、政府はE・C型の附加価値税とか、歳出税、福祉税など名前を変えて

大型間接税の準備を進めている。これら税はいずれも物価をつり上げ、低所得者ほど負担が重い。一般消費税の一種でありこれを導入しないとした昭和54年12月の国会決議に反し、絶対に許されるものではない。不公平の解消をねらいとする記帳の義務化は働く国民を対立させて大企業、大資本家優遇の不公平税制から目をそらされるものだ。国民の自主申告の権利が奪われ推定課税による税務署の思い通りの課税が行われようとしている。また記帳の義務化は今後、大型間接税などを実施する上で

必要な布石である。さらにこの6年間の減税見送り等による増税額は所得税で5兆円、住民税で1兆円と合計6兆円に達する。3兆円程度の減税は当然であり、その財源として軍事費と大企業優遇予算の削減や不公平税制を是正すべきだ。国民の生活を棄にし消費購買力を盛んにすることは景気回復にも役立つものだ。従って国の政策の中で国会で定めるものであるという理由で、国に意見書を提出してくれという請願主旨を不採択すべきとする総務委員会報告に反対する。

賛成討論

大林 政雄議員(自民)

今回の補正予算中の補助金削減はそれなりに理解できる面もあるが、国の膨大な財政赤字、行政改革の推進など一朝にして解決し得ない情勢の中で、国、県支出金の獲得こそ、これから町長の政治的手腕力量が問われるところであり、若干苦言を呈する。

一、今回の職員給与の改正分として4千700万円支出となるが、個人町税補正額4千800万円とほぼ見合っている。職員の給与については住民の厳しい関心が寄せられて折、その取り扱いに遺憾のないよう期待する。砺波市等において職員の不祥事が起きており、他山の石として職員の綱紀粛正

必要となる。さらにこの6年間の減税見送り等による増税額は所得税で5兆円、住民税で1兆円と合計6兆円に達する。3兆円程度の減税は当然であり、その財源として軍事費と大企業優遇予算の削減や不公平税制を是正すべきだ。国民の生活を棄にし消費購買力を盛んにすることは景気回復にも役立つものだ。従って国の政策の中で国会で定めるものであるという理由で、国に意見書を提出してくれという請願主旨を不採択すべきとする総務委員会報告に反対する。

問題発生が懸念される。今後の努力が必要である。

一、入善小学校隣接地の用地取得は、学校の配置等構想の定まらない取得であるが、隣接地の確保等見通しが大事であり早急に対応すべきだ。

一、舟見体育館は運営して見て住民から意見や要望が出てくれば、条例の改正すべき時期も生ずるものと思われる。

一、新規土地改良事業計画の許可に向けて努力を望むが先に議決した板屋、下野間の入善西部と今回提案されている入善東部は、東西分断されており路線の整合性を疑問視する。今後の取り組みは入善町の将来像を踏まえた道路計画とされたい。

一、道路、水路の整備に関する6件の請願、陳情は町政懇談会などでの住民対話で町長も充分承知のことと思う。早急に高率補助の獲得に奔走し要望に応えられたい。

一、健康センターの増築整備に関する陳情は中央通り線等都市計画づくりとのかわり合い、町民会館、武村福祉会館、その他施設との関連を見て増築すれば良いが、移転すべきか今後の検討課題だ。

一、入善七夕まつり事業の拡大についての請願のその主旨は、町が主催するというものであり多くの問題点があり継続審査とすべきだ。

一、たばこ専売制度ならびに公社制度の存続に関する請願は、臨調

につとめ町民の付託に応えられたい。
一、寝たきり老人短期保護委託事業費の増額、一人暮らし老人家庭の火災報知器の設置など、福祉の充実が見られるがこれからも弱者保護の姿勢を貫かれない。
一、広域種子団地育成事業費が大幅に減額になったのは、当初計画で十分検討したか疑問視する。59年の予算編成に当たっては住民のニーズを正確にとらえ対応することが肝要だ。
一、二年続けて繰越していた君島門山寺線の用地購入費を工事費へと節の更正してあるが、引き続き用地交渉しないと新たな

答申に逆行することや自由競争の原理、消費者ニーズへの対応等問題もあり継続して審査する必要がある。

一、大型間接税導入反対に関する請願は、財政再建が国民の緊要な課題になっている今日、何等財政再建の具体策を明示せず反対することは責任ある態度とはいえない。各種公共サービスの確保は国民の負担により裏付けられるものであり、単に大型間接税導入に反対することの内容が不明である。中型、小型なら賛成という可能性もあるが、いやすくも当議会はかかる曖昧模糊としたスローガンを受け入れる程無知でない。一、申告納税制度改悪反対に関する請願は、今日個人事業者の青申告率が52%前後振ったこと

町民会館特別委員会視察記

副委員長 五十里 隆 章

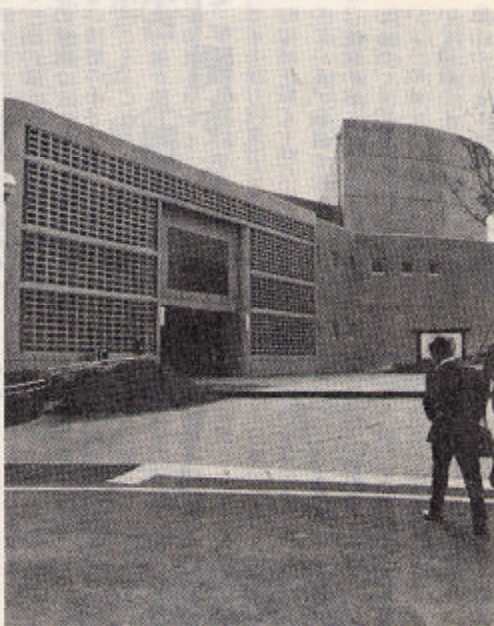
59年度から町民会館を建設したいとする当局からの意向を受け、議会としての意見の参考と資するため、11月8日から10日にかけてモデル地区を視察した。

最初の視察地中新田町は宮城県仙台市より北へ進むこと36km、人口1万6千、予算規模25億円、ササニシキを生産する農村地帯。この文化会館（通称ハツハホール）の音響装置は、NHKホールに勝るとも劣らないと全国にその名が

は、時代の要請であり、年間収支状況が明瞭になり経営計画にもプラスになる。かかる時代の要請に対し反対するということが理解に苦しむ。新川民主商工会の自主申告とは、記載に基づかずおぼろげなる記憶にたよる申告を言うのか。

一、3兆円減税実現に関する請願については、先の国会で共産党を除く与野党間の合意に沿い58、59年度を通じて、所得税及び住民税について1兆2千億円減税の減税に踏み切ること法律が施行された。当議会がすでに公布された法律に反対することは、日本共産党の政策を受け入れることになり全く論外の請願といふべきだ。以上意見を付して各常任委員会委員長報告に賛成する。

知られ、総合音楽ホールとして演奏に重点をおいている。客席数700席のホールの床面、壁はコンクリートの打ち放しであり、椅子等設備は華美ではなく質素であったが、ステンドグラスの窓を備えたホワイエでは、休息や種々の展示に使用されている。音楽資料室ではテープ、レコードがヘッドホンにより自由に聞ける。リハーサル室（2室）は音楽、バレエ、民謡、踊りなどの練習室として町民に開

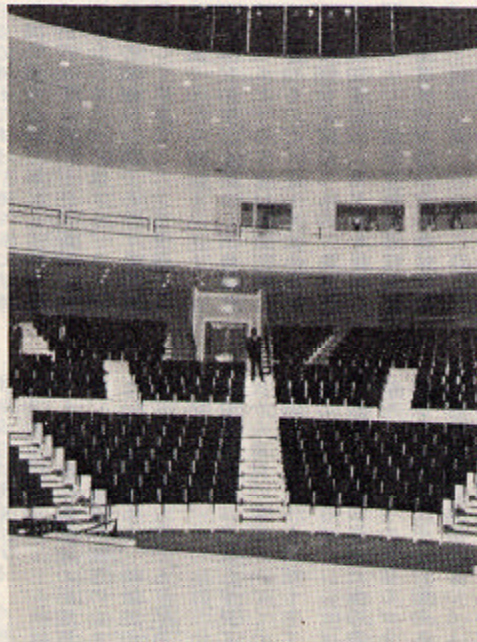


掛川市生涯学習センター

放され利用度も高い。ホールの年間利用は100回（57年）とよく活用されクラシック演奏は年10数回開催、音楽の素晴らしさもあって、遠くは静岡、東京からも鑑賞に来るとのこと。またホールは音響可変装置を備えているため演劇の使用にも充分応えることができるという細部にわたって工夫されていた。会館の建設にあたって、建設委員会（議員、音楽家、建築家、町内有識者25名）が組織され建築場所から十分検討始められたことや、専門委員会によってその考えをまとめ上げられている。56年に7億5千万円で建築されたこの会館は、市街地より車で数分離れた場所であったが、中央公民館、体育館など集中しもと田であった所が近年、雇用促進住宅、一般住宅が立ち並び変貌しつつあった。

次に訪れた静岡県掛川市は、今

新幹線駅の新設運動が大々的に行われ、駅前土地地区画整理事業の進行中である。掛川市長榎村純一氏は、地方の時代の先駆者としていろいろなアイデアの溢れた人物として全国に知られ行政についての著書も多い。将に、何かが起こっ



掛川市ホール内部

ているなあ”という意気込みの感じられる街である。東海道の宿場町として発展してきた掛川市は、今ありきたりの田園都市ではなく、思想的の高い田園都市となるため、農業を生かし、緑を生かし、種々な仕事、文化活動、年中行事を通じて市の全域を公園のように、大学のようにし一流のメニューを持つクリエイティブ都市となることを考えているまちである。お互いに生甲斐を引き出し合い、よりよく生き、よりよく生かすために、風格ある人間、風格ある家庭、地域を築こうと考えているまちであり昭和54年、生涯学習都市宣言を行った独特の理念を持つまちである。

このまちが生涯学習都市となるため、その中心的役割を果たすために建設された生涯学習センターはたまり場、いこいの場となるよう考えられている。ごく自然に産

もが三々五々集まり、時には祭りに、芝居見物に、学習に訪れ参加できるよう工夫されている。

(1)雨、風をしのぐための空間
 (2)暖や涼をとる空間
 (3)大・中・小の会合に使え、伸縮自在の空間

を考えて多目的な要望に応えることを目指したセンターであった。用地面積1万8千㎡、鉄筋平屋建6千50㎡、総事業費23億5千万円、会議室、学習室、料理、工作、和室、ギャラリー、催物広場、ホール(固定席50席、ロールバック席(移動席)40席、ホールテイアの部屋、青年、婦人の部屋、コーヒーカーナーなどを備えている。文化ホール、円形の広場、街路のような通路、ステンドグラスを思わせる子供描いた絵を染色した布を使うなど採光天井は我々が思いもつかないユニークな建物であった。

市民主導型の施設として生涯学習を盛り上げていくことを目的として、全国にも誇れる掛川のシンボルとして建設したというだけのことはあり発想が豊かであった。一歩市街地へ足を向けると広場感覚をもった道路が延びている。街路樹は混植され電柱はなく(地下埋設)歩道は松の間伐材を使用し木レンガで造られており、やさしさ、ぬくもりが感じられた。駅前生涯プラザ通りとでも言うのだろうか。今回視察した二市町には町づくりにかける情熱、それらが生み出すアイデアがそこここに感

じられ、役場職員にも誇りと自信やる気と活力が生じ積極的な躍動が感じられた。

自治体の事業はその首長の個性、見識が影響するものだと言われるが、視察地は30代、40代の若い首

長が施政するまちだけあって脈々と躍動が伝わってくる二市町の視察であった。しかし一面これら会館を維持して行く場合、相当の費用が必要と痛切に感じられ今後の検討課題とすべきものと思えた。

決算特別委員会視察記

委員 小林 与三雄

11月17日、18日、私共が広島県府中町を視察した目的は、いま入善町が実施しようとする計画している情報公開制度(公文書公開条例)の内容を知るためであり、特に全国でも数少ない条例制定町村の中で、人口や財政規模で入善町とよく似ているこの町を選んだ。

安芸府中町は広島市に周囲をぐるりと取りまかれた、全国でも例のないめずらしい町である。広島市に合併しないのは町に東洋工業本社、キリンビール広島工場など優秀な企業があり、町の歳入の60%近くの税金など財政的に恵まれているからであり、また昔安芸の国



府中町ファイル方式



府の所在地としての古い伝統と文化が守られているからだといえよう。

とす」から始まり、第15条29項まで町民に対する知る権利が保障されている。

さてこの町に初めて情報公開制度の問題が提起されたのは、昭和54年12月定例会において「行政上の情報公開に関する条例」が議員提案として本会議に上程、総務委員会に付託された。また一方、町民の意見を聞くため、昭和55年6月「府中町情報公開準備委員会」が設立された。以来、約2ヶ年間に30数回の会合が開かれ、昨昭和58年3月23日に「府中町情報公開条例」が公布、同4月1日施行になった。

しかし内容をつぶさに検討して見ると問題点が多くあるように思われた。一つは非公開の内容が非常に多いこと、二つ目は公開が拒否された場合の異議申し立てとその審議機関の問題、三つ目は実際4月から公開要求を受けた内容については、条例がある、なしにかかわらずそれ等は当然公開出来ること等、今後の運用面で問題があるように思われた。いずれにせよ入善町が富山県でトップを切った条例を制定するというところにウエイトをかけることは論外なことであり、広く住民と議会と町と充分な論議が必要と考えられる。視察したことを踏まえて、今後の入善町のあり方を検討して行かねばならないと痛感した。

「この条例は住民の情報公開を求める権利を保障することにより、町政の公正な執行と住民の信頼の確保を図り、もって民主的町政の発展に寄与することを目的

黒部川水利調査 特別委員会視察記

委員長 本田 幸光



阿賀野川頭着工

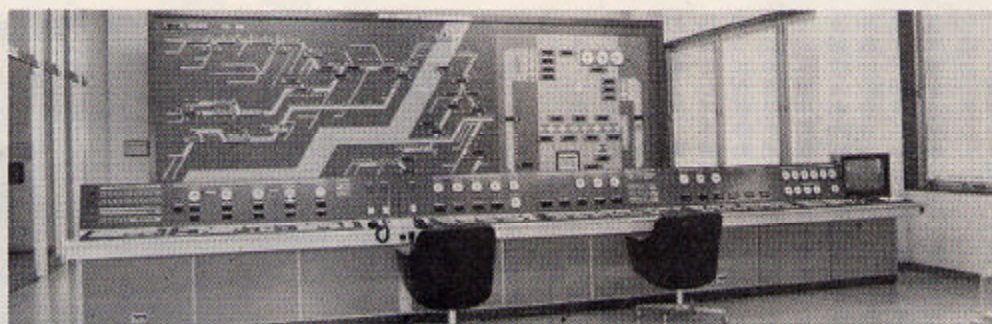
59年度より着工が予定される国営黒部川農業水利事業は、本町農業にとって重要な問題である。一方地元から不利益解消を図れる要望も出されており、これに応えながら事業を推進して行く必要上から、水利調査特別委員会は、北陸農政局の案内で11月21日に新潟県阿賀野川用水農業水利事業（新津市）状況を視察した。所長の説明では、受益面積1万5千100ヘクタール（黒部川沿岸の倍以上の面積）3市7町村にわたる勾配3千分の1（入善町は1/10）全くの平担地、川の上流福島県等で河川改修が進

み河床が低下して取水困難となり、水不足と低平地で度々の水害、湿地では機械化農業ができないため、基幹水利施設と幹線水路の改良で生産向上、経営安定を図るものと上水道、工業用水確保を目的としたものであった。事業の内容は頭首工（黒部川では愛本堰堤に当たる）幹線水路延長10キロメートル、最大取水毎秒54・47トン、昭和37年に着工してようやく完成に近づいている。途中2回の計画変更で当初見積額より3倍以上20億円となり、農業関係で20億円、農地10アール当たり16

万円、農家負担21%約3万2千円となった。これは15年償還の借り入れ金でまかなうが、単位土地改良区では、事業当初からの費用等ブールして負担するという事であった。配水等の水管理は、土地改良連合が中央管理所で集中管理システムによって行う。取水、配水量、幹線用水、分水点の流量は常時電光指示され、堰堤ゲート、主要分水地の遠隔操作および配水の無線による操作指令ができ、堰堤状況は3箇所のカメラからモニターテレビに写し出される監視の仕組みとなっている。ほかに堰堤には幅6メートル、長さ33メートルの舟通し開門も造られ、ゲートを動かすには停電の場合の自家発電設備もあった。

この地域は上流から下流に20キロメートル以上あり、取水した水が末端に到達するのに12時間以上必要である。用水の使用に合わせる調整が大変むづかしく、設備は完全自動遠隔操作であった方が良かったのではないかと考えられた。掃路、新発田市の清水園（城の下屋敷、県の文化財）養蚕の館（伊藤家、新潟平野の大地主6郡64か町村に土地所有、農地解放で消滅博物館として保存）を見学、途中で走れど走れど真っ直ぐな道路が続き、地図の上で線を引く、そのまま工事が完了した道路のよう、前も後も見える範囲は10キロぐらいと思われ。水田には薄茶色の土管とビニール袋の観察が一面に配置してあり、暗渠排水工事が

が行われるとのこと、また大型圃場とするには田圃の畦を取り除けば完成する平担地で、わが黒部川扇状地に比較して、新潟平野の広さに改めて驚かされた。



阿賀野川水管理中央操査室

編集後記



良い年をお迎えになられたことと思います。今年もよろしくお願いたします。立春が過ぎたとはいえ、真冬に震える今日この頃です。雪下ろしや火災・交通事故などに日々も注意願います。一方、地方財政は国の影響を受け昨年よりなおきびしいものになってきました。肥大する行政需要に対し当面する3月予算案で大いに審査し、一歩一歩町民のニーズに応えるよう執行当局に提言し、実行に移させていきたいと思っております。

議会だより編集委員
上田 義信 野坂 俊一
大林 政雄 岡島松次郎
若島 信行 石川 昭男
西尾 三郎 九里 郁子